



2023年(令和5年) 特別号

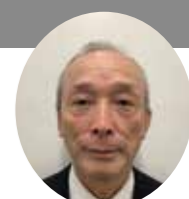


一般社団法人 日本風力発電協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-10 西新橋アネックスビル3F
電話03・6435・7126 https://jwpa.jp



主張

一般社団法人
日本風力発電協会(JWPA)
代表理事 加藤 仁



洋上風力市場無ければ育たず

2050年のカーボンニュートラルを実現するためには風力発電、特に大規模な洋上風力の導入は必須で、30年以降は毎年3〜4ギガワットの洋上風力案件の公募をしていく必要がある。

毎年数千億円規模の案件が3〜4件公募に掛かるという状況となるのです。わが国の発電所建設の歴史の中でも、これだけの規模の新規案件が毎年出来てきたことはなく空前の大手市場となるのです。

しかしながら、わが国の洋上風力発電の現状は期待と話し合いながら、先行しているのが実情で、実績と呼べるものは秋田・能代港の港湾プロジェクトなどがあるだけで、一般海領域の案件は工事着手もこれか

題が先行しているのが実情で、実績と呼べるものは秋田・能代港の港湾プロジェクトなどがあるだけで、一般海領域の案件は工事着手もこれか

素技術・知見をもった企業が、の電気製造物しか購入法を策定すべき時に来てい

の企業が出て来つつあり、再生可能エネルギー導入の遅れは日本の国として明確な方針の下に進められるものであり、この方針の下で洋上風力を始めとする日本の再生エネは新たな雇用、経済波及効果をもたらすように導入・推進されるべきであると考えます。一般社団法人日本風力発電協会(JWPA)として全力で取り組んでいきたいと考えておりま

※1ギガワット=100万キロワット

風力導入1.6倍に

前年比1カ所平均は最大



青森県六ヶ所村の風力発電群。日本の風力発電は陸上で礎が築かれ、さらに洋上へと大きく羽ばたいています

2022年の国内風力発電導入量が前年比1.6倍、22・8万キロワットに達し、うち新設発電所1カ所当たりの平均は過去最大約2・9万キロワットになったことが分かりました。一般社団法人日本風力発電協会(JWPA)が明らかにしました。22年までの累積導入量は480万キロワットを突破。JWPAと政府が最大限の導入を目指す再生可能エネルギーの「切り札」である風力発電の導入が続いています。

JWPAの調べでは、発電所停止分を差し引いた同年の国内風力発電導入量は計約22・8万キロワット(65基、5カ所)でした。同年導入量は7月から12月の下半期だけで、21年の約13・9万キロワットを上回る約15・9万キロワットを記録。通年では21年の約1・6倍となりました。

さらに新設風力発電1基当たりの平均導入量が0・34万キロワットに達して、

高所でもへっぴちやら

久保田香菜さん(33)

風力発電の保守・点検を担う青森市の久保田香菜さん(33)が一般社団法人日本風力発電協会(JWPA)の取材に応じ、「狭い風車内では小柄なほうが作業しやすく、むしろ女性に適している側面もある」とメンテナンスの魅力を語りました。再生可能エネルギーの普及でメンテナンス(1741基)となり、漸増が続いて22年には約480・2万キロワット(2622基)になりました。

JWPAは今後の風力発電導入量について「今年も港湾内の洋上風力発電や大



今年の冬、青森県内の風力発電設備で風向計のメンテナンスを行う久保田香菜さん

「高所は怖くないですが、屋根の上でも移動できるスペースは施設には確保されているし、ロープで吊り下がって行うヒヤヒヤドキの点検作業なんてないですよ。風車のブレードの補修は原則、地上からクレーンでアクセスしますし、外の足場も1メートル幅はあります。風光明媚な景色が楽しめる場所です安全管理も徹底して作業できるの、むしろ爽快です」

「観覧車みたいですか」とんでもない。いくらか

「装備は重くないですか」「人力による重量物取り扱いは可能な限り避ける設計になっています。人力作業が必要な場合にも、高さ・身体からの距離・性別に応じて重量制限を会社で設けており身体的負担の低減を図っています」

「具体的な作業は」「夜間飛行する航空機に注意喚起する航空障害灯、風向きセンサー、隙間のチェックなどやることはたくさんあります。特にナセル内部に雨水が入ると電源が落ちて、発電ができなくなるおそれがありますので、メンテナンスには大きな責任が伴います」

「周りの様子は」「冬の雪原ではスノーモービルを駆使して風車にアクセスするなど道なき道を行くこともあります。風力発電設備は都市部からは遠い場所にあるケースが多いです。逆に言えば、アウトドアやレジャーを思う存分に楽しめます。風車のある全国各地でおいしいものも堪能できます。足がウネウネと動く佐賀県の大活造りは絶品でした」

【略歴】久保田香菜(くぼた・かな) シーメンス・ガメサ・リニューアブル・エナジー青森事務所勤務。サービスのオペレーション部門のサービステクニシャン。青森県藤崎町出身。

ワクワクしながら 風力を主力電源化

寄稿



海洋冒険家 白石 康次郎(55)

風の変化が至福の喜び 単独で行う世界一周のヨット航海では3カ月ほど、1日24時間、風と向き合って舵を切っています。ですから、航海中は連続して1時間以上寝られません。だって単独なので私しかいませんから。食事中でもトイレにいるときも、風の力でヨットは動き

船体の左右に羽根がついていて、風が吹くと揚力を得て空中に浮くのです。例えば15ノットの風が吹くと、ヨットのスピードは30ノットに達することがあります。風力の倍の速度が得られます。かかげのない動力源です。今後、風力発電の主力電源化が進み、日本国民にとってかけがえのない、生活に不可欠な動力源になっていくはずですよ。

風は自然の「力」である一方、ヨットと風力発電は人間の「知恵」の結晶です。これが融合することで、ヨットは航行するし、風車は回るわけです。私はヨットを操舵するときに、この融合で、風との一体感を味わっています。

先見えなから楽しい 1994年3月、26歳10カ月でヨットによる単独・無寄港・無補給で世界一周に成功しました。日本人の最年少記録でした。四半世紀以上経過した今でも、この記録は破られていません。偉業と思われる方もいるかもしれませんが、実際は25歳のとき、世界一周に2度も失敗しているのです。成功は、まさに3度目の正直でした。2度も失敗し、恥ずかしいし、死にたいと思ひ詰めました。

同時に秘めた本心から「冒険は先が見えないから楽しい」「好きだから挑戦を断念するという選択はしない」という強い思いがマグラのように湧いてきました。

石油や石炭などエネルギー資源のほとんどを輸入に頼り続けている日本には

必要不可欠なプロセスだからです。海上交通路を確保することは、とても重要です。国民の生存のため、海上交通路による資源輸送を確保しなければなりません。が、有事の際に、その保証はありません。自明ですが、エネルギー安全保障の観点から、自然の中に存在する無料のエネルギー源である風の力を活用しない手はないのです。

未踏の風力発電の主力電源化に向け希望に満ち溢れているわけですから、いっしょにワクワクしながら挑み続けましょう。

(DMGMORISAILING TEAM スキップパー・JWPAアンバサダー)

美しい未来を、風の力で創る。

一般社団法人 日本風力発電協会

